教育あきた

3月号
2022 No.754

令和3年度特別支援学校技能競技会の様子

～ビルクリーニング競技～

正確さとスピードが求められます

～喫茶サービス競技～

笑顔で接客します

～縫製競技～

素敵なエプロンを作ります

HOT VOICE

秋田県教育委員会委員　奥　真由美　寄稿

「教育委員就任にあたって」子どもたちの『生きる力』とは

わか杉っ子！ 育ちと学びステップアップ事業

TOPICS 「病弱教育サポートセンター」について

学校と放課後等デイサービス事業所との連携促進に向けて

特別支援学校就労・職場定着促進事業　～職場定着・理解促進の取組より～

いのちの教育あったかエリア事業　～実践事例を紹介します～

ICTを活用した教育力の向上とは

TOPICS 第36回秋田県教育研究発表会を開催しました

県立図書館　誰もが読書を楽しむことができる図書館へ

読書の楽しさを実感！「ビブリオバトル2021 in AKITA」

SPOT 今だけしか見られない催し物を紹介

今回は文学資料館、近代美術館、県立美術館、博物館

HOT VOICE ほっとぼいす

～ 教育委員就任にあたって ～

秋田県教育委員会委員　奥（おく）　真由美（まゆみ）

任期満了により退任した伊藤佐知子委員の後任として、令和３年12月22日に奥真由美さんが新たに教育委員に就任しました。今回は、教育委員就任に当たり、これまでの経験や教育への思いについて、本号に寄稿していただきました。

****

この度、秋田県教育委員会委員を仰せつかることとなりました奥　真由美と申します。

現在横手市で学習塾、ロボット・プログラミングスクール、不登校のフリースクール、通信制高校、eスポーツ倶楽部、カフェなどを運営しております。以前、不登校の子どもたちとミクロネシア連邦の無人島を目指し大型ヨットで片道40日かけて航海し、島に家を建てて暮らすプロジェクトを経験したことを軸に、点数や成績を上げる塾とは違った「生きる力」をつける塾の塾長として25年、約1800人の指導をしてきました。

では「生きる力」とは何でしょう。無人島で子どもたちが掴んだものは、何もないところから創り出す力や工夫力、そして直観力や判断力。失敗しても折れない逞しさ。相手を認め理解する力。人と違う発想力や多様性。夢中になって注ぎこめる力。そのどれもが「生きる力」であり、つまりは社会でやっていく上での必要な力と私は捉えています。

６年前にキャリア教育コーディネーターという資格を取得した理由も、受け身的に学ぶのではない学びの一つがキャリア教育だと知ったからです。キャリア教育とは、子どもたちが地域や企業と繋がったり、人と関わりながら実践を通して社会のしくみを知ったり、課題を解決する学びを体験したりするものであると考えています。その実践として、例えば、銀行の協力を得て子どもたちにお金の授業を行うこと、また、証券取引所の協力を得て高校生に株式会社の立ち上げから、商品開発、販売、決算、株主総会までの経営を体験させることで、まさに「生きる力」をつけていく姿を見てきました。この春からは、高校生が実際に商売をする「高校生カフェ」を開店させるために、今準備をしています。

しかしその一方で、自分の目的を見いだせずに悩んだり引きこもったりする子どもたちも沢山いることも事実です。カウンセラーである私のところにも相談が増えています。

それ以上に増えているのが母親からの悩み相談。変化の大きい時代の中で、子育てや教育に悩みを抱える保護者へのサポートもまた今後の大きな課題であると感じています。

様々な活動を述べさせて頂きましたが、これまでの地域活動や教育活動の経験を活かし、今後は教育委員として行政の立場で、様々な課題に向き合いながら秋田の子どもたちの健やかな成長と秋田の教育の発展のために精一杯力を注ぐ所存でおります。

皆様のお力をお貸し頂けたら幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

秋田の子どもの健やかな成長のために　～就学前教育・保育の充実を～

わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業

― 文部科学省「幼児教育推進体制の充実・活用強化事業」―

乳幼児期の教育・保育と小学校教育との円滑な接続を具現化するために

乳幼児期の教育・保育と小学校教育との円滑な接続の一層の充実を図るため、令和３年11月26日、就学前教育推進協議会をオンラインで開催しました。座長の秋田大学教育文化学部教授 山名裕子氏をはじめ、幼稚園・保育所・認定こども園や関係団体の代表者、市町村（教育委員会・福祉部）の行政担当者など、教育・保育に携わる様々な立場の方々から、各市町村における幼小接続に係る取組状況や好事例、課題など広く意見を伺いました。

◇円滑な接続に向けた重要な諸課題について（委員からの主な提言）

・０～５歳の日々の育ちを小学校にどのように伝えていくか。（相互理解を深める必要性）
・乳幼児期に育まれる見えない力をどのように小学校教育とつなげていくか。（発達の理解）
・園内においても保育者の見方や考え方の違いがある。どのような子どもに育てていきたいのか職員間の共通理解が大事。
・いろいろな方を巻き込んで､子どもを育てていくこと。（共有・連携）

◇円滑な接続を具現化するために(山名座長からの主な提言)

・どういう遊びをしているのかだけではなく、遊びを通して育っていることの意味づけを共有することが円滑な接続に欠かせない。
・子どもの姿を具体的に語り、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」はあくまで方向目標であることを小学校の先生方にも理解してもらうこと。
・前倒しの教育・保育にならないよう、それぞれの年齢に相応しい経験や体験を大事にすること。
・教育・保育アドバイザーも含めて、保育者や小学校教諭等の様々な視点から子ども理解、発達理解を共有し深めること。

市教育・保育アドバイザーのコーディネートによる質の高い教育・保育に向けた実りある研修機会の提供

本県では、各園や保育者の学びの支援、身近な地域での研修を充実させる体制の強化を目的とし、県と７市（大館市､男鹿市､横手市､潟上市､仙北市､大仙市､にかほ市）に教育・保育アドバイザーを配置し、幼稚園・保育所等への定期的な巡回訪問の他、地域のニーズに応じた市主催研修会の開催などに取り組んできました。

市教育･保育アドバイザーは市全体の課題、園や保育者の要望を把握し、研修会をコーディネートしています。事業実施市において開催された研修会では、近隣園の保育者が集まり、キャリア別、課題テーマ別、ミニ公開保育等を通じ学びを深めました。

県教育委員会では今後も、小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながる乳幼児期の教育 ･保育の理解啓発を進めるとともに、全ての子どもへの質の高い教育・保育の保障に向け、市町村と連携し幼児教育推進体制の充実強化、０歳児からの教育・保育の充実を図ってまいります。

ミニ公開保育の遊びの様子
興味・関心のある遊びを通じて、子どもの姿から様々な育ちが見て取れます。

TOPICS

病気の子どもたちをサポートします

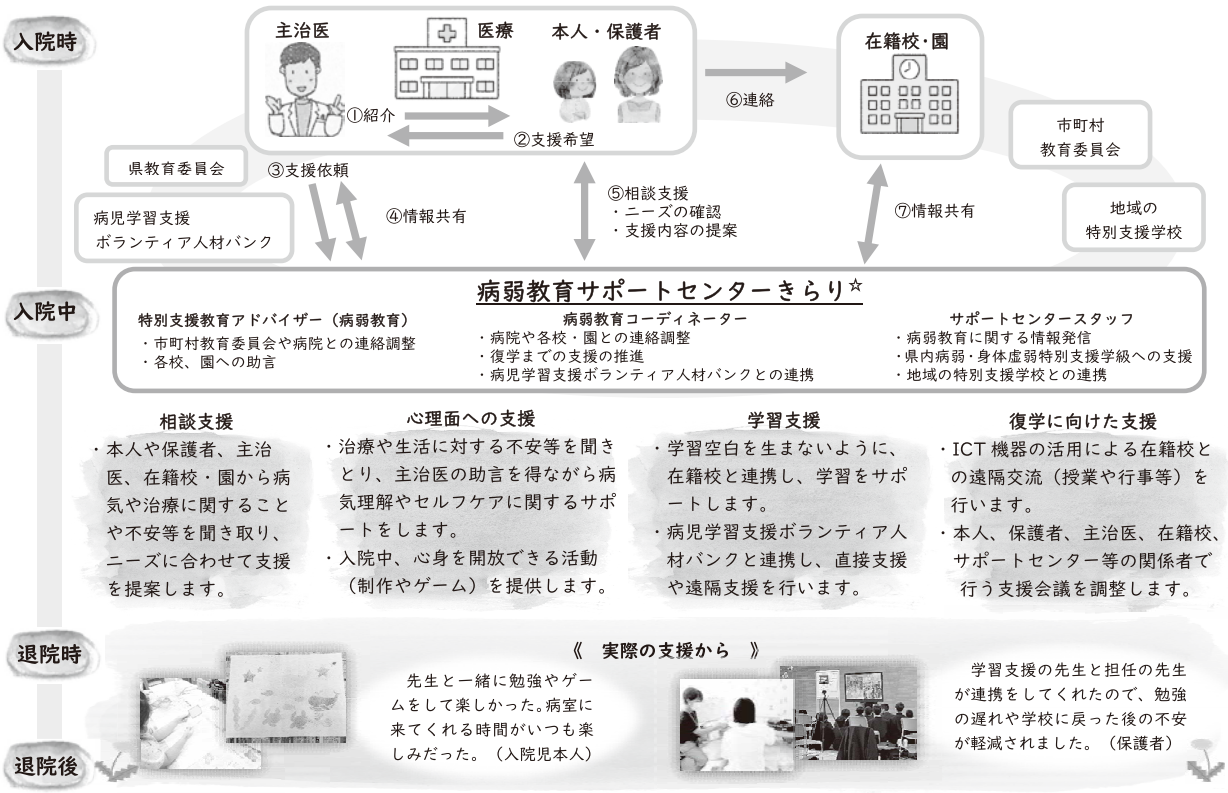
「病弱教育サポートセンター」について

病気の子どもたちは、短期間の入退院を繰り返したり、退院後も通院や自宅療養が必要となったりする場合があります。また、県外の病院への入院等、病状に応じて転院を繰り返しながら、長期間の入院治療を必要とする場合もあるため、一人一人の病状に合わせた学習支援の充実を図る必要があります。

県教育委員会では、県立秋田きらり支援学校に設置している「病弱教育サポートセンター」を中心とした全県域でのネットワーク体制で病気の子どもの在籍校をサポートすることによって、病気の子どもに対する支援の充実を目指しています。

病弱教育サポートセンターの取組　～秋田県立秋田きらり支援学校HP参照～

＜　入院時から退院時までの流れと具体的な支援内容　＞



退院後の自宅療養中の学習についても、在籍校との連携のもとで支援を提案します。

＜病弱教育サポートセンターの今年度の取組から＞

「秋田県病弱教育研修会」

「病室と教室をつないでのオンライン授業」

病弱教育サポートセンター（県立秋田きらり支援学校内）	相談電話	018-838-1181
	メールアドレス	kirari-support@akita-pref.ed.jp

「学校と放課後等デイサービス事業所との連携促進に向けた研修会」
～ 切れ目ない支援に向けた連携体制の構築に向けて ～

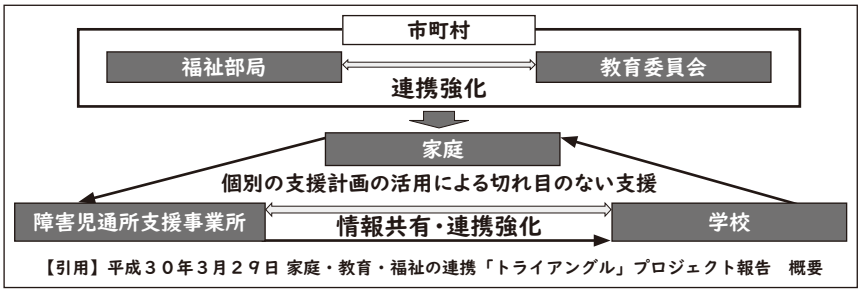
1　障害のある子どもと保護者の放課後等を支える「放課後等デイサービス」

平成24年に改正された児童福祉法において、学齢期における障害児の放課後等対策の強化を図るために、放課後等デイサービスが創設されました。令和４年１月１日現在、秋田県では、放課後等デイサービスを提供する事業所（放課後等デイサービス事業所）を81か所指定しており、特別支援学校に加え、小・中学校に在籍する児童生徒の利用も年々増加するなど、障害のある子どもの放課後等の生活の場として大きな役割を果たしています。

2　教育と福祉の連携による「切れ目ない支援体制」の構築に向けた研修会

１の状況を踏まえ、県教育委員会では、障害のある子どもの生活や学習を総合的に支援する「切れ目ない支援体制」の構築を目指して、家庭と教育と福祉のより一層の連携を推進する方策を検討した国の「トライアングル」プロジェクト報告（図１参照）に基づき、「学校と放課後等デイサービス事業所の連携促進に向けた研修会」を令和２年度から開催しています。

今年度の研修会は、教育・福祉関係者によるパネルディスカッションを主な内容とし、県内３地区（北秋田市、由利本荘市、湯沢市）で実施しました。



【図１：連携促進のための具体的な取組例（「トライアングル」プロジェクト報告）】

【県央地区研修会（パネルディスカッション）】

3　学校と放課後等デイサービス事業所の連携促進に向けた取組の推進

研修会では、コーディネーターの秋田大学教育文化学部准教授 鈴木徹氏から「連携促進のためのキーワード」（図２参照）が示され、パネラーや参加者からは「今後取り組んでいきたいこと」（図３参照）が具体的に挙げられました。これらを連携促進のための要点として発信し、切れ目ない支援体制の構築に努めていきます。

【現状】連携のために、「それぞれを知る取組（定期的な面談等）」や「場と場をつなぐ取組（メモや電話の活用等）」を行っているところは多いが、「連携は不十分」という捉えが多い。

それぞれの取組をより良いものにしていくためには
（好事例を増やしていくためには）

現場レベル
・チーム(家庭・教育・福祉)としての意識向上
・双方向性のある情報のやりとり（伝達から共有へ）

行政レベル
・現場レベルを下支えするような領域横断的な取組

【図２：連携促進のためのキーワード（コーディネーター）】

【学校】
・事業所訪問・見学、面談、個別の支援計画の活用、校内への情報提供
【市町村教育委員会】
・学校管理職への放課後等デイサービスの周知、連携に係る状況把握

【放課後等デイサービス事業所】
・学校訪問・見学、面談、個別の支援計画の活用、事業所の支援の向上
【障害児相談支援事業所】
・関係機関をつなぐ役割の発揮、福祉サービスの周知
【市町村障害福祉担当課】
・教育行政との連携強化、関係機関をつなぐ仕組みづくり

【図３：今後取り組んでいきたいこと（パネラー・参加者）】

令和３年度　特別支援学校

就労・職場定着促進事業
～職場定着、理解促進の取組より～

特別支援学校高等部卒業生の職場定着率の向上と、企業等の障害者理解の促進を目指し、昨年度から「特別支援学校就労・職場定着促進事業」を実施しています。今年度は、推進拠点校である比内支援学校（県北）、ゆり支援学校（県央）、大曲支援学校（県南）を中心に事業を推進しています。事業の主な取組を紹介します。

関係機関と情報交換を行う「職場定着対策会議」

各推進拠点校では各２回、特別支援学校卒業生の就労先事業所やハローワーク、障害者就業・生活支援センター等で構成する「職場定着対策会議」を開催し、職場定着に関する意見交換を行い、関係機関と連携した職場定着支援のポイントや、在学中に育てていきたい生徒の力とその方法などを確認しました。会議を受けて各校では、卒業後の自立に向けて、小学部、中学部、高等部のつながりをより確かなものにするとともに、卒業生の情報を就労先に、より丁寧に伝えるよう努めています。

理解促進を目指した職業教育フェア「特別支援学校技能競技会」

県内３地区で、特別支援学校高等部生の職業能力や職業教育の実践を、一般企業や地域の皆様に広く理解していただく職業教育フェア「特別支援学校技能競技会」を開催しました。今年度の主管校は、能代支援学校（県北）、支援学校天王みどり学園（県央）、大曲支援学校せんぼく校（県南）でした。競技には「ビルクリーニング」「喫茶サービス」「縫製」の部門があり、各校から選ばれた選手が技能を競い合い、作業技術や作業態度など学習の成果を発揮して一生懸命に取り組む選手の姿を、多くの一般企業の方に参観していただきました。

隅々まできれいに
～ビルクリーニング競技～

「職場定着支援員」による職場訪問

今年度は大曲支援学校に「職場定着支援員」を配置しています。県南地区の特別支援学校高等部卒業生の就労先へ訪問し、勤務状況の確認や、障害特性・合理的配慮の提供等についての理解促進活動を行っています。そこで得た情報を卒業生の出身校へ伝えることにより、手厚い追指導につなげています。

本事業における職場訪問状況

訪問回数	訪問事業所数
103回	42社

（令和３年５月～令和４年2月末）

生徒たちの『働きたい』、
卒業生の『働き続けたい』を
応援してください。

問合せ先：教育庁特別支援教育課　TEL 018－860－5135

いのちの教育あったかエリア事業　推進地域・推進校の実践の紹介

本県の道徳教育の重点である「生命尊重・思いやりの心」を育てる教育を「いのちの教育」として本事業に位置付け、県内３地域において、学校と家庭・地域とが連携しながら、地域社会全体で命の大切さについての認識を高めるモデルづくりを行っています。

八峰町　八森小学校、峰浜小学校、八峰中学校区

地域施設などの雪かき

○取組の概要

「生命尊重・思いやり・郷土愛・愛校心」などの道徳性や自己有用感及び自尊感情の醸成を目指して、小中連携や地域住民との協働による道徳教育について取り組んできました。

○活動名：「小中連携地区奉仕活動」

○参加者：小学生、中学生、小・中学校教職員、保護者、地域住民

○内　容：保護者や地域住民の協力を得ながら、小・中学生が地域の清掃や雪かき作業を実施しました。地域住民との協働を通して郷土愛や思いやりの心と自己有用感等の醸成を図りました。

にかほ市　金浦小学校、金浦中学校区

中学生による花の苗植え

○取組の概要

思いやりの心や発達の段階に即した自己有用感の醸成、自己実現に向けた態度の育成を目指すために、小中連携における道徳教育について取り組んできました。

○活動名：「全校縦割りサツマイモ栽培」（小学校）
「花いっぱい運動プロジェクト」（中学校）

○参加者：小学生、中学生、小・中学校教職員、地域住民

○内　容：小学校では、サツマイモの栽培活動を地域住民の協力を得ながら進め、収穫物の一部を地域の介護施設に届けました。また、中学校では、育てた花のプランターを地域の15か所に設置し、住民と協力して水やりを行う活動を実施しました。これらの活動を通じて、地域の方々との関わりの大切さを改めて実感することができました。

大仙市　高梨小学校、横堀小学校、仙北中学校区

中学生による説明の様子

○取組の概要

「生命尊重・思いやり」を小・中学校共通の重点内容項目として、これまで行ってきた行事や活動を見直し、地域の人材の効果的な活用や児童生徒の心に響く体験活動を取り入れた道徳教育の実践に取り組みました。

○活動名：「旧池田氏庭園ガイドボランティア」

○参加者：小学生、中学生、小・中学校教職員、地域住民

○内　容：仙北中学校の生徒が、地域の方や高梨小学校、横堀小学校の児童に対して、国の名勝に指定されている「旧池田氏庭園」のガイドボランティアを行いました。活動を通して、ふるさとのよさを再発見するだけではなく、思いやりの心をもって相手に接することの大切さを学ぶことができました。また、地域の方との交流を通して、人との関わりの大切さを再認識する機会となりました。

令和３年度　ＩＣＴを活用した秋田の教育力向上事業

ICTを活用した授業改善支援事業

本県のこれまでの教育実践 × ＩＣＴの活用 ⇨
・授業改善の推進
・学びの質の向上
・情報活用能力の育成

ＧＩＧＡスクール構想による教育のＩＣＴ化が進んでいます。本県では、これまでの教育実践を継承しつつ、ＩＣＴを学習ツールとして活用することは、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた**授業改善**、ひいては児童生徒の**学びの質の向上**につながると考えます。また、**情報活用能力**については、学習指導要領において学習の基盤となる資質・能力として位置付けられ、これからの社会を担う児童生徒にとって、必要不可欠な資質・能力と捉えています。

本事業では、本県教育におけるＩＣＴの活用を加速化させるため、県内の小・中学校６校（**大館市立城南小学校、能代市立能代第一中学校、男鹿市立船川第一小学校、大潟村立大潟中学校、湯沢市立湯沢西小学校、横手市立横手南中学校**）によるＩＣＴを活用した授業改善に向けた実践的調査研究を令和３年度から令和５年度までの３か年計画で行うことで、効果的な学習方法や指導方法を明らかにし、その成果の普及を図っていきます。

今年度の実践例の一部を紹介します。

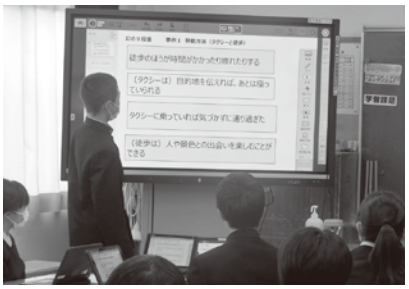
○学校ＩＣＴ教育推進アドバイザーによる支援校訪問での指導

本県の学校ＩＣＴ教育推進アドバイザーを鳴門教育大学大学院教授 藤村裕一氏にお引き受けいただき、支援校の学校訪問やＩＣＴ事業推進に係る検証改善委員会での講話等、御尽力・御助言をいただいています。

○ＩＣＴを活用した学習の様子（小学校）

端末に書きこんだ自分の考えを指で示しながら相手に伝えています。自分の考えを書いたり消したりすることが容易にできるのは、ＩＣＴ活用の利点の一つと考えられます。

○ＩＣＴを活用した学習の様子（中学校）



個人の端末の画面を大型電子黒板に表示し、全体に説明をしています。友達の考えとの共通点や相違点を見いだしやすくできることで、話し合い活動の一層の充実が期待されます。

○校内研究会の様子

各支援校において、研究会のもち方は様々ですが、ＩＣＴの活用について、熱心な協議が行われました。この写真は、オンラインで藤村氏に質問をしている場面です。

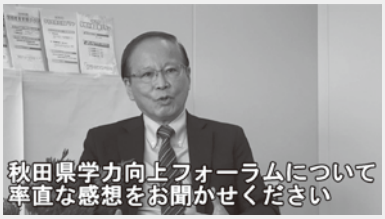
令和３年度 ＩＣＴを活用した秋田の教育力向上事業
秋田の教育に係るオンライン・ミーティング

ＩＣＴ活用の取組を全国に情報発信することを通して、本県におけるＩＣＴ教育の推進とその普及を図るため、以下の内容でオンライン・ミーティングを行いました。

１　期　　日　令和４年１月12日（水）
２　開催方法　YouTube によるライブ配信
３　内　　容

（1）学力向上フォーラムを振り返ってのインタビュー

秋田大学大学院教育学研究科特別教授 阿部昇氏を迎え、平成20年度から11回にわたり本県で開催してきた、授業改善の活性化と優れた授業実践の継承の在り方について考える学力向上フォーラムを振り返ってインタビューを行い、学力向上フォーラムを総括しました。



（2）モデル校による実践発表・質疑応答

ＩＣＴを活用した秋田の教育力向上事業における支援校である湯沢市立湯沢西小学校と大潟村立大潟中学校から、この１年間のＩＣＴを活用した教育実践の取組を発表していただき、参加者からの質問にも答えていただきました。

（3）学校ＩＣＴ教育推進アドバイザー 藤村裕一氏による講演

「ＧＩＧＡスクール構想の実現と秋田の探究型授業の実現に向けて」と題してＩＣＴ活用教育の理念・理論・実践から秋田の探究型授業の見直しと柔軟化について御講演いただきました。

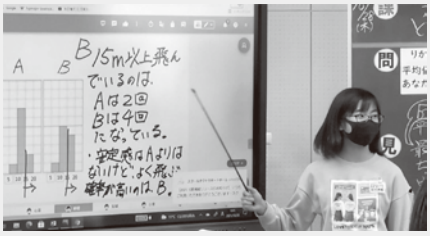
（4）公開座談会

ＩＣＴを活用した秋田の教育力向上事業における支援校からの報告に共通する成果と課題を取り上げ、秋田の探究型授業や主体的・対話的で深い学びの視点による授業改善について、有識者の方々とこれからの方向性を探りました。

（5）ＩＣＴを活用した授業動画等の配信

令和４年１月５日（水）から19日（水）に、教育専門監等の公開授業やモデル校の授業におけるＩＣＴの活用場面を動画配信しました。

【授業公開】　八峰町立峰浜小学校（６年算数）
　　横手市立旭小学校（５年理科）
　　鹿角市立十和田中学校（３年理科）
【授業場面】　県内特別支援学校、大館市立城南小学校、能代市立能代第一中学校、男鹿市立船川第一小学校、横手市立横手南中学校



４　参加者数及び感想

参加者数は987名、うち県内学校の参加者数は73校352名でした。県内外の参加者からは、今後のＩＣＴの活用実践及びサポート体制の参考になるという感想が多く寄せられました。来年度は、県内のより多くの先生方に参加いただけるよう働きかけてまいります。

TOPICS

郷土あきたの教育への提案

第36回　秋田県教育研究発表会

秋田県教育研究発表会は、本県教育の振興を目的として、県教育委員会と総合教育センターが毎年実施しているものです。内容は、センター研究発表・講演等で構成され、県内外に広く情報を発信する場となっております。

第36回となった今回は、新型コロナウイルス感染症の急拡大に伴い、オンライン型（オンデマンド）で、２月３日（木）から16日（水）に開催しました。新たな試みを取り入れながら、「郷土あきたの教育への提案」のコンセプトの下、これからのあきたの教育について考えを深める機会となりました。

センター研究発表　郷土あきたの教育への提案

総合教育センターでは、本県の教育課題の解決に向けて様々な角度から研究に取り組んでいます。今年度は校内研修、教科指導、特別支援教育について、２年計画の最終年次の報告を行いました。なお各研究に関する資料は、当センターウェブサイト（https://www.akita-c.ed.jp）にも掲載しています。

センター研究１【校内研修】

実践的指導力習得期にある教員育成のための校内研修プランの提案

習得期（初任～３年目）の教員の育成に向けた校内研修が充実するよう、校内研修の現状や習得期の教員の傾向を分析し、より多くの教員による関わりを促すための工夫を取り入れたワークショップ型の校内研修プランを提案しました。

センター研究２【教科指導】

子どもが資質・能力を活用・発揮できる授業づくりに役立つアイディアの提案

各教科で構想したアイディアを研修講座で取り上げるとともに、講座を受講した教員が作成したアイディアを収集したり、実践状況の聞き取りをしたりしながら、授業づくりに役立つアイディアを提案しました。

センター研究３【特別支援教育】

学びにくさを抱えた児童生徒の理解と学習上の配慮－特別支援教育の視点を生かして－

受講者を中心に行ったアンケート調査の結果「書くこと」に関して学びにくさを抱えている児童生徒が多いことが分かりました。本研究では「書くこと」に着目し、児童生徒の理解と指導方法、ＩＣＴを活用した手立て等について提案しました。

講　演　被災地復興に見る「今、求められる新たな教育」

前川　直哉 氏

講師：福島大学教育推進機構高等教育企画室　特任准教授
一般社団法人ふくしま学びのネットワーク理事・事務局長
前　川　直　哉　氏

被災地支援の御経験や現在取り組まれている福島県での活動に触れながら、「自分のための学びから、誰かを幸せにするための学びへの転換」や「正解のない問いに対して、自ら課題を発見し解決策を探る新たな学びの形」について、示唆に富むお話をいただきました。これからの社会で求められる教育の在り方について認識を深めるとともに、「なぜ学ぶのか」という問いに対する大きなヒントをいただきました。

参加者の声

・学ぶ意義を他者の幸福に見出すのは、私にとって新しい視点でした。自己肯定感が低い生徒が増えていて、何をしたいのかが分からないという声が年々増えているように思いますが、そんな生徒への働きかけとしてもこの視点は役立つと感じました。
・前川先生の行動力もさることながら、それを突き動かしたのが「自分たちにも何かできないか」と考えた生徒たちだったことに感激しました。今後の参考になる有意義な講演会でした。

講演会（オンライン）の様子

県立図書館における今年度の取組

～ 障害者サービスについて ～

令和元年６月に「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律」（通称「読書バリアフリー法」）が施行されました。これを受けて、秋田県では「第３次秋田県読書活動推進基本計画」（令和３年３月策定）において障害者等の読書環境整備を推進することとし、県立図書館では通常の活字による読書が困難な方や、図書館に来館することが困難な方を対象としたサービスを実施しています。

1　バリアフリーコーナーの拡充

スペースを拡大し、資料の点数を大幅に増やしました。活字をそのままの大きさで読めない、集中して読めない、記憶できない等といった視覚や識字面での障害や、本を持つことができない等の身体的な障害を持つ方のために、点字図書、LLブック（簡単な言葉や絵・写真を多く用いた分かりやすい本）、マルチメディアDAISY図書など400点以上が置かれ、利用することができます。

閲覧室内のバリアフリーコーナー

2　図書利用カードの「障害者区分」新設

図書利用カードに「障害者等」の区分を新設しました。通常の貸し出し、予約等の他、マルチメディアDAISY図書の閲覧と貸し出しが可能となっています。

また、県立図書館に直接来館できない方のために、図書利用カードの申請・発行を郵送でも行っています。

3　マルチメディアDAISY図書の提供

視覚障害、発達障害等の読書が困難な人のために作られたデジタル録音図書です。パソコンまたは専用の機器を使い、文字と音声、画像を同時に再生できるもので、これまでは点字図書館のみの取り扱いでしたが、県立図書館でも利用できるようになりました。約40点を所蔵しており、一般の方に貸し出しできるものもあります。館内に閲覧専用席を１席設置しています。

マルチメディアDAISY図書

また、通常の活字が読みにくい方なら誰でも利用できる資料として、大活字本や朗読・落語等のＣＤ（オーディオブック）等もあります。読書をサポートするツールとして読書専用の拡大鏡、老眼鏡等も用意しています。

この他、県内の市町村立図書館等支援用として大活字本やバリアフリー絵本等の貸出用セットも用意しており、県内どこに住んでいる方でもこれらの資料を利用できる体制を整備しています。

秋田県立図書館ホームページ

読書の楽しさを実感！ ビブリオバトル

「ビブリオバトル」ってなあに？

発表者がお薦めの本の魅力を５分間で紹介し、２～３分のディスカッションの後、聞いていた人たち全員で「一番読みたくなった本」（チャンプ本）を投票で決める知的書評合戦です。

ルールは簡単！「読みたい！」と思わせた人が勝ち

ビブリオバトル公式ルール（ビブリオバトル普及委員会　https://www.bibliobattle.jp/homeより）

1　発表参加者が読んで面白いと思った本を持って集まる。
2　順番に１人５分間で本を紹介する。
3　それぞれの発表の後に、参加者全員でその発表に関するディスカッションを２～３分間行う。
4　全ての発表が終了した後に、「どの本が一番読みたくなったか？」を基準とした投票を参加者全員が１人１票で行い、最多票を集めた本をチャンプ本とする。

「ビブリオバトル」の魅力って？ ～人を通して本を知る　本を通して人を知る～

◇ **新たな本に出会える！**

「おもしろい本がありますよ」と紹介してもらうことで、読みたい本が見付けられます。

◇ **発表者の隠れた魅力に出会える！**

発表にはその人の興味や考え方などが自然と表れるので、人柄を知ることができます。

◇ **ドキドキ、ワクワク感が味わえる！**

発表はレジュメやプレゼン資料を用意せず、視聴者の反応を見ながら行うため、緊張感やライブ感が生まれます。

また、参加者全員が、自分の１票でどれがチャンプ本になるか？というワクワク感を味わうことができます。

ビブリオバトル 2021 in AKITA

秋田県では中学生・高校生を対象に、ビブリオバトルを開催しています。

令和３年度の秋田県大会（ビブリオバトル2021 in AKITA）は、令和３年11月23日（火・祝）に秋田拠点センターアルヴェ「きらめき広場」で開催しました。県内７か所での地区大会を勝ち抜いた中学生７名、高校生６名の発表者（バトラー）が熱い戦いを繰り広げ、小学生から一般の参観者の投票によって、中学生・高校生のチャンプ本が決定しました。

中学生の部

『あたりまえポエム　君の前で息を止めると呼吸ができなくなってしまうよ』（氏田　雄介／著　講談社）

秋田市立御所野学院中学校　馬場　彩乃 さん

ビブリオバトル 2021 in AKITA チャンプ本

高校生の部

『生きるぼくら』（原田　マハ／著　徳間書店）

県立湯沢翔北高等学校雄勝校　小南　紗英 さん

「ビブリオバトル」に参加したい！

令和４年度の「ビブリオバトル in AKITA」開催日程については、決まり次第、秋田県公式ホームページで御案内します。

発表者として参加を希望する場合は、学校を通じてお申込みください。

参観は自由です。是非チャンプ本を決める投票に御参加ください。

ビブリオバトル in AKITA
ホームページ

【地区大会問合せ先】

大会名	北鹿大会	能代大会	秋田大会	由利本荘大会	大仙大会	横手大会	湯沢大会
問合せ先	教育庁北教育事務所 TEL 0186-62-1217		教育庁生涯学習課 TEL 018-860-5184		教育庁南教育事務所 TEL 0182-32-1101		

SPOT

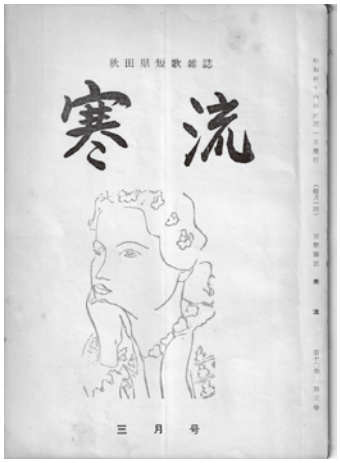
あきた文学資料館

新収蔵資料展

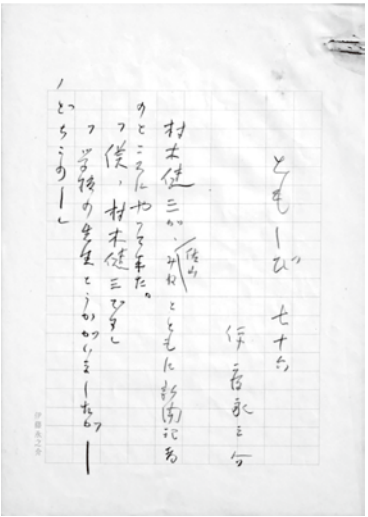
令和３年度に寄贈を受けた貴重な資料を展示します。

まず、小説家・伊藤永之介の遺族がこれまで大切に保管してきた２作品の直筆原稿です。ひとつは永之介原作のＮＨＫラジオドラマ「ともしび」（昭和34年）の放送されなかった20回目以降の原稿。ひとつは昭和30年に日本少年児童文化協会が創刊した雑誌『中学生のなかま』に掲載された「新しい湖」、その４回目の原稿です。いずれも完結をみなかった永之介の未公開作品です。

また、令和元年に終刊した歌誌『寒流』の創刊会員であった奈良霧笛氏の旧蔵資料、さらに俳句関連では高浜虚子の俳句と平福百穂の画が描かれた扇面、石井露月や島田五空等の揮毫などを中心に公開しています。



歌誌『寒流』



伊藤永之介の原稿

石井露月と島田五空の揮毫

会　　期	令和４年３月16日（水）～５月１日（日）
開館時間	10：00～16：00（休館日　月曜日）
会　　場	あきた文学資料館（秋田県立図書館分館） 秋田市中通六丁目６－10（市民市場近く、旧秋田東高校）
入 館 料	無料
お問合せ	あきた文学資料館　Tel. 018-884-7760

SPOT

秋田県立近代美術館

2022　コレクション展第1期　描かれた気象

「気象」をテーマに、当館所蔵品から風景画など約55点を展示します。

会　　期	令和４年４月13日（水）～７月３日（日）
開館時間	9：30～17：00（最終入館　16：30）
観 覧 料	無料
お問合せ	県立近代美術館 Tel. 0182-33-8855

《暮彩》堀川達三郎　1987（昭和62）年
近代美術館蔵

SPOT

秋田県立美術館

特別展「川瀬巴水（かわせはすい）　旅と郷愁の風景」

《芝増上寺》東京二十景
1925（大正14）年　木版、紙
渡邊木版美術画舗蔵

大正・昭和期に活躍した版画家・川瀬巴水（1883－1957）。日本全国を旅して、四季折々の風景を叙情的に描いた巴水は、「新版画」を牽引する存在として、「旅情詩人」「昭和の広重」とも呼ばれ、国内外で人気を博しています。

本展では、巴水の代表作とともに、秋田を題材に描かれた作品も紹介します。

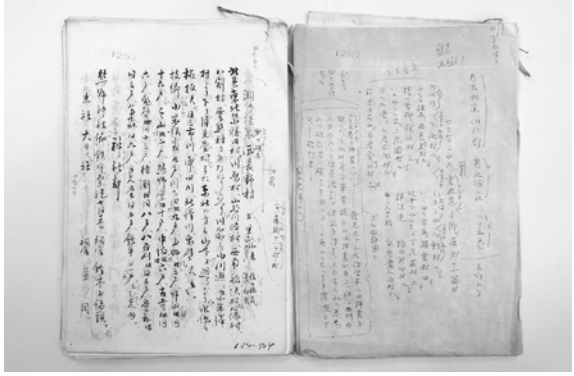
会　　期	令和４年４月16日（土）～７月３日（日）
開館時間	10：00～18：00（最終入場　17：30）
会　　場	秋田県立美術館　３Ｆギャラリー
休 館 日	令和４年５月25日（水）
観 覧 料	一般　1,000（800）円、高大　800（600）円 ※中学生以下無料 ※（　）内は前売、20名以上の団体料金
お問合せ	県立美術館　Tel. 018－853－8686

SPOT

秋田県立博物館

企画展「深澤多市－郷土研究と真澄研究の偉業－」

深澤多市



『秋田叢書』の原稿

『秋田叢書』の刊行で知られる郷土史家・深澤多市。秋田叢書の刊行は多市が私財をなげうってまで成した一大事業でした。本展では、若年期から多市が学んだ漢詩文や官吏時代の人々との交流の様子などを交えながら、叢書刊行の礎となった多市の郷土研究と菅江真澄研究の足跡について、遺された多くの資料や刊行物などから紹介します。

会　　期	令和４年４月29日（金・祝）～７月３日（日）
開館時間	9：30～16：30
会　　場	秋田県立博物館　２Ｆ企画展示室
休 館 日	月曜日（休日の場合は翌平日）
観 覧 料	無料
お問合せ	県立博物館　Tel. 018－873－4121

秋田県特別支援学校文化祭作品紹介

秋田県特別支援学校文化祭（「第19回わくわく美術展」と「令和３年度　みんなの写真展」）が、秋田市にぎわい交流館AUを会場に開催されました。「わくわく美術展」絵画コンクール部門1,007点、「みんなの写真展」415点の応募作品の中から最優秀賞を受賞した作品を紹介します。
子どもたちが自由な発想で伸びやかに表現した作品を御覧ください。

わくわく美術展　絵画コンクール部門　最優秀賞作品

「影に見惚れているバッタ」
伊藤　結依（ゆり支援学校　高等部２年）

「つかむ」
佐藤　恋桜（ゆり支援学校　中学部２年）

みんなの写真展　最優秀賞作品

「無重力」
M・S（比内支援学校　高等部３年）

第28回全国特別支援学校文化祭に出展し、全国特別支援学校知的障害教育校長会長賞を受賞しました。

「デート」
伊藤　ほのか
（比内支援学校たかのす校　中学部１年）

■「教育あきた」は、県の教育関連施設や市町村の公民館、図書館等に設置しています。
また、県公式ウェブサイト「美の国あきたネット」からもご覧いただけます。

この印刷物は4,800部作成し、印刷経費は1部当たり19.37円です。

リサイクル適性Ⓐ
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

令和４年３月24日「教育あきた」№754
発行・秋田県教育委員会
編集・秋田県教育庁総務課
〒010-8580　秋田市山王三丁目1-1
TEL.018-860-5112　FAX.018-860-5851
Eメール　soumu-edu@pref.akita.lg.jp
https://www.pref.akita.lg.jp/pages/education